

## 「昭和 23 年の学制改革に遭遇した世代の『思い出の記』(その 6)」

## 《 相馬中学校に入学し相馬高校卒業となる等 》

思 い 出 <sup>(※1)</sup>高普 4 回卒 小島 孝正 <sup>(※2)</sup>

私達が相中に入学したのは、終戦直後で、食糧は無く物は無く、本当はないないづくしでした。雨の日などは教室のあちこちに雨が落ちて来るので、机を片すみに寄せて勉強をしました。教科書は「ガリ」ですったようなザラ半紙 2 枚ぐらいで、しかもそれが全部に渡らないものもありました。無い時はそれを写して授業に使ったこともありました。いま考えると、まったく想像もできないほどです。ましてやいまの学生達に話しても理解できないと思います。教室はオンボロであったが掃除は徹底してやりました。特に廊下等は各クラスで競争して磨いたものです。これも思い出の一つになっています。

不思議なこともありました。それは我々が入学して 3 年間は連続して最下級生だったことです。これは学校改革によって、相中に併設中学が置かれ、相高になるまで続き相高になって初めて各方部から新入生が入って来て、やっと下級生ができたのです。したがって、同じ学校で卒業するまでに 3 年間通った組と、6 年間通った組とができました。

私は併設中学 3 年のときバレーボールクラブに入りました。そしてまもなく私にとって初めての県大会に出され、優勝の経験をしたのです。私はこの時、やればどんなことでもできるんだという尊い教訓を、体を持って受けとめることができました。それと同時にスポーツを通しての友情と、スポーツをやったものにしか味わうことのできない喜びを教えてもらうことができました。

その後卒業するまで連続 4 回県内で優勝の経験をし、夢にまで見た国民体育大会に参加しました。特にあの大会の入場式に出た時は自然に涙が出てきました。やはり、学生時代には思う存分自分のエネルギーを発揮させる場を持つことが大切であると感じました。卒業して 26 年過ぎた今、当時のことが浮かんで懐しさが胸を打ちます。

その後は同じ運動クラブの仲間が年々増してきており、その人達との交流する機会もたびたびあり、先輩後輩の方々から教えられることが大いにあり、言葉で表現できない何か心の中に通ずるものが感じられるのです。運動で鍛えた「精神力」「忍耐力」、これがいざという時に大いに役立っております。

相高バレーボールクラブにとって、生みの親は庄司國男 <sup>(※3)</sup> 先生であり吉田孔彦 <sup>(※4)</sup> 先生です。私達はこの両先生を中心に今後も心の支えとして頑張っていきたいと思えます。後輩の皆様もその若いエネルギーを大いに発揮し、運動に勉強に自分の体力の限界に挑戦し、やがて来る時代のために力をつけてください。

(※1) 創立 80 周年記念誌『相中相高八十年』の「思い出の記」より。

(※2) 昭和 27 (1952) 年卒、飯豊出身。

(※3) 昭和 9 (1934) 年卒、相中第 32 回、中村出身。

(※4) 昭和 17 (1942) 年卒、相中第 40 回、中村出身。

## 根性、忍耐を身につけて (※5)

高普4回卒 小島 孝正



我々は昭和21年、旧制の相馬中学に入学した最後の学年でいつも上級生ばかりで、下級生は居りませんでした。しかしあとで併設中学新制高校になり、やっとのことで下級生が入って来たので上級生になった感じを味わったものです。この当時は終戦直後の年で食糧も、物資も乏しく勉強どころではありませんでした。その日の生活をどう切り抜けどう生きて行くか必死でした。

しかし根性忍耐だけは誰にも負けない教育を受けて来た為に、今になってやっとその芽が出て来たのではないかと、教育とはそんなもので、あとになって次第にその力が表れて来るのだと思います。

私達の時代は相馬高校バレーボール部の最も強い時で、全国大会に4年連続出場し県内では抜群の力を持っていました。当時の監督は吉田孔彦先生で今でも元気で釣等楽しみながら、相馬地方の母さんバレーの指導者として活躍して居ります。

又バレー部の中から今度福島県の保健体育課長に（旧姓荒）氏家仁 (※6) さんが就任され県内スポーツ関係については相高OB、特にバレー関係では主たる地位を独占している様です。本当に喜ばしいことであり、今後更に県内スポーツの振興に努めていただきたいと思います。

又当時バスケットボール部に居た、寺島泰三 (※7) 君が自衛隊ではトップ陸幕長に就任されました。本当に名誉なことであり、日本の国を守り治安維持災害防止等あらゆる面に渡り、活躍されている吉報を聞くたび同級生の一人として誇りに思っています。

一方実業界にあっては長堀守弘 (※8)（旧姓斎藤）君の様に外国に、会社を持ち相馬にも「そま」工場を日立木の柚木に持ち、その工場長にやはり同級生の大島忠夫 (※9) 君がなって活躍して居ります。又仙台に航空学校を開校したいとして田中義一 (※10) 君も頑張っています。地元では早川電気社長（早川武邦 (※11)）、医者では加藤産院（加藤東一郎 (※12)）と言った方々をはじめ、多くの同級生が力を発揮して居ります。

私も市政をあずかる一人として、相馬市の発展に微力ではありますが、全力を集中し努力をして居ります。皆様の御協力、御支援に心から感謝申し上げます。今後は相高に松田重信 (※13) 君同級生が在職しているので、更に連絡を密にし母校の為、ふるさと相馬発展の為、皆んなで協力をしてすばらしい相馬を造って行きたいと思えます。皆様の今後の御活躍を心から御期待申し上げます。

（相馬市議会議員）

(※5) 創立90周年記念誌『紅の旗』（1988）の「我等OBも頑張っているぞ！」より。

(※6) 山上出身。 (※7) 福田出身。

(※8) 新地出身。 (※9) 原町出身。

(※10) 大野出身。 (※11) 中村出身。

(※12) 新地出身。 (※13) 中村出身。